

畜産会 経営情報

主な記事

- ① セミナー生産技術
家畜飼養の基本講座 第3回「子牛の病気」
住吉俊亮
- ② おらが故郷の経営自慢
飼料米利用による養豚経営の改善と、堆肥を利用したアスパラガスを主体とした野菜の栽培と六次化による経営改善
農林水産大臣賞／株式会社五十嵐ファーム(養豚経営・山形県鶴岡市)
山田知二
- ③ 中央畜産会からのお知らせ
平成30年度 畜産特別資金融通事業の実施について
- ④ (独)農畜産業振興機構からのお知らせ
肉用牛肥育経営安定特別対策事業(牛マルキン)の補填金単価(概算払)について
- ⑤ あいであ&アイデア
取り外し可能な子牛の寒さ対策
田中 恵

公益社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2デューアイシービル9階
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890
URL <http://jlia.lin.gr.jp/cali/manage/>
E-mail jlia@jlia.jp

セミナー

生産技術

家畜飼養の基本講座 第3回 『子牛の病気』

日本大学生物資源科学部獣医学科 住吉俊亮

第3回となる今回は、子牛に多い病気とその対策についてお話しさせていただこうと思います。

親牛に比べ体力のない子牛は、いったん病気になるってしまうと進行が早く、急激に弱って死に至ることもあります。また、たとえ死に至らなくても、子牛の時期の病気によるダメージはその後の成長、そして生産性に大きな影響を及ぼします。まずは病気にさせない予防が大切となりますが、不幸にして病気になってしまった場合でも、早期発見、早期治療を目指しましょう。

子牛期に問題となる病気は下痢と肺炎がほ

とんどだと思しますので、この2つをメインに進めていきます。

子牛の下痢



Q1 子牛が元気、食欲はあるのですが、軒並み下痢をして困っています。どうすればよいでしょうか？

A 下痢の原因はさまざまですが、このように元気、食欲はあるが長引くような下痢の多くは、飼養管理に問題があることに起因することが多いように感じます。まずは子牛を飼っている場所、管理方法、哺乳方法を見直してみ

ましょう。

第2回でもお話ししましたが、まず生まれてなるべく早い時期に十分な量の初乳を給与することが重要です。また、なるべく子牛にストレスを与えないように気を付けましょう。そのためには寒い時期には寒さ対策を行い、子牛は乾いた清潔な場所に置いてあげ、換気を十分に行いつつも隙間風は防いであげましょう。そして暑熱時には直射日光の当たらない、なるべく風通しのよい場所に置いてあげましょう。

スペースに限りのある農場もあると思いますので、致し方ないのですが、成牛の飼槽の前、あるいはバークリーナーの後ろの通路に子牛を繋いで飼うことも、親牛の餌や不潔な物が口から入り、消化不良による下痢を引き起こすことがありますので、できれば避けたいものです。

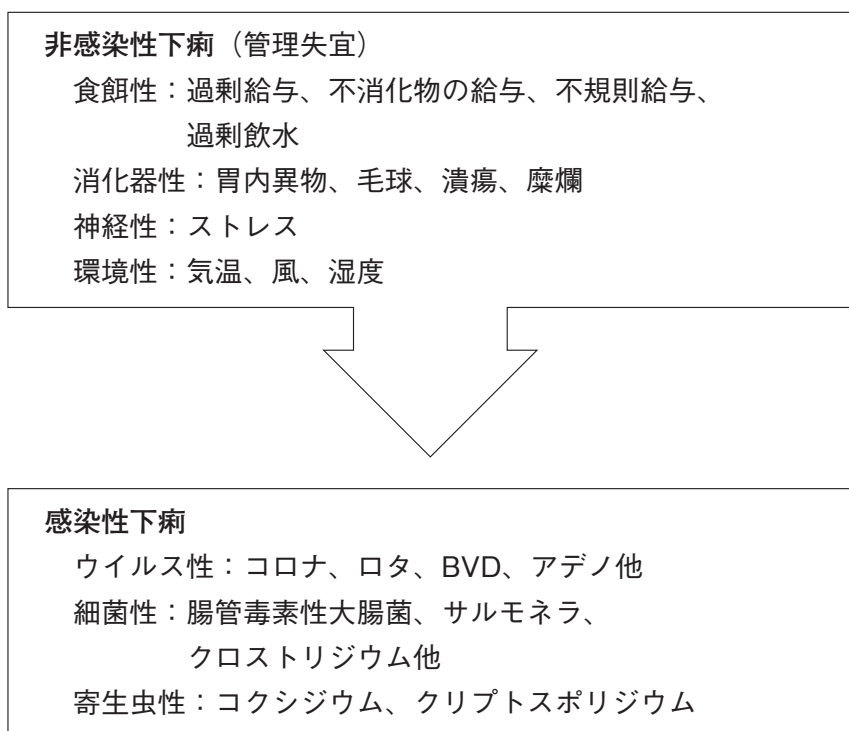
また哺乳の時間、回数等の条件はなるべく固定しましょう。代用乳は規定の量を規定の湯量で完全に融解し、給与時の温度も体温程度（39℃前後）になるように調整しましょう。給与量を増やす時も、少しずつ、何回かに分けて増していきます。

和牛の場合、出生体重や体

格がホルスタインと比べ小さく、胃の容積も小さいので、特に酪農家の方は受精卵産子と牛の哺乳の際には注意が必要です。早く大きくしたい気持ちはわかるのですが、ホルスタインと同じ哺乳管理を行うと下痢をすることが多くなります。日量500～600gの代用乳を2～3回に分けて給与するところから始めて、ふんの状態を見ながら徐々に給与量を増やしていきましょう。

また、哺乳に使用する器具の消毒が不十分だと、細菌が増殖し下痢を起こします。乳房炎や血乳の牛乳の給与も下痢を引き起こす原因となります。まずは以上に挙げたような基本的なところから見直してみましょう。

(図1)下痢の原因
(生産獣医療システム 肉牛編より 一部改変)



下痢の原因と対処



下痢の原因はさまざまであると先ほどお話ししました。図1に主な下痢の原因を非感染性、感染性に分けて示しました。

見ていただくとわかるように、これらは非常に多岐にわたります。そして下痢は必ずしもこの中の1つが原因となって発症するのではなく、いくつかの原因が重なることで発症することが少なくありません。このことから現場でふんの状態のみを見て、下痢の原因を特定することは非常に困難です。ですからここでは下痢の原因の診断、治療についての解説は割愛させてもらい、実際に生産者のみなさんが下痢を見つけたときに行うことのできる対処、処置についてお話しさせてもらいます。

まず薬の投与についてですが、普段下痢の予防あるいは治療を目的として、生菌剤（ボバクチン、ビオスリー等々）および消化酵素剤（ビオペア、トルラミン等々）を投与している方も多いと思います。生菌剤を投与することにより腸内の正常細菌叢を補強することができ、また消化酵素剤を投与することで下痢により低下している消化機能を補正することができます。これらは抗生物質と異なり、使用上の制限がありませんので、日常的に下痢の予防対策として用いることができます。

次に寄生虫性下痢の予防、治療です。子牛の寄生虫性下痢の代表的なものは、やはりコクシジウム症でしょう。血便のイメージが強いですが、ひどい血便が認められたときには

すでに他の細菌による二次感染を起こしていることが多く、サルファ剤に加えて抗生物質の投与等が必要です。このため予防が重要になります。コクシジウム症の予防には現在トルトラズリル製剤（バイコックス、コクシトール）があり、1回の投与で4週間位効果が持続しますし、昔に比べて手間が省けて非常に便利になりました。投与時期は生後1～2週間、1ヵ月齢以内が良いと思いますが、獣医師に相談してみてください。

加えて線虫類の駆虫を行いましょう。これもイベルメクチン製剤の外用薬があり、背中に体重に応じてかけるだけでオーケーです。これだけやっておけば寄生虫関係の予防は大丈夫でしょう。

またウイルス性、細菌性の下痢（コロナ、ロタ、大腸菌、サルモネラ）に対しては、母牛に分娩前に接種することにより、子牛の下痢症予防に効果のあるワクチンがあります。ウイルス性、細菌性の子牛下痢症が多発するようなら、状況に応じてワクチンの接種を考えてもよいでしょう。



(写真1) 踏み込み消毒槽 この牧場は入場用と退場用に分けています。手前の水と人工芝の立った踏み込み槽で汚れを落としてから消毒薬の入った踏み込み槽に入ります



(写真2)このように嚴重にネットを張っても、頭の良いカラスは隙間を見つけて入ってきます。何か良い対策はないのでしょうか？

さらに感染性の下痢症の予防対策には感染源を持ち込まないことが重要となります。牛舎の入り口、あるいは牛舎内のエリアごとに踏み込み消毒槽を設置し、感染源の持ち込み、拡散を防ぐと効果的です。消毒薬は有機物が混ざると効果が減少してしまいます。踏み込み消毒槽に入る前には、長靴の汚れをよく落としてから入るようにしましょう。

また、牛舎は食べるものがたくさんあり、居心地がいいのでハトやカラスが多く入ってきます。ハトやカラスは下痢の原因となる細菌を持ち込むことがあります。対策に苦慮されている生産者の方も多いと思いますが、なるべくカラスやハトを畜舎内に入れないようにしましょう。また以前サルモネラ症が出た酪農家さんで、牛舎環境を調べたところ、牛舎内に放し飼いにしていた鶏からサルモネラが検出されたということがありました。牛舎内で鶏やチャボを放し飼いにするのも避けましょう。

Q2 子牛が下痢をしている場合、獣医師に診察を依頼するか、断乳や経口補



(写真3)このような水様の下痢をしている場合は、早めに獣医師の診察を受けましょう

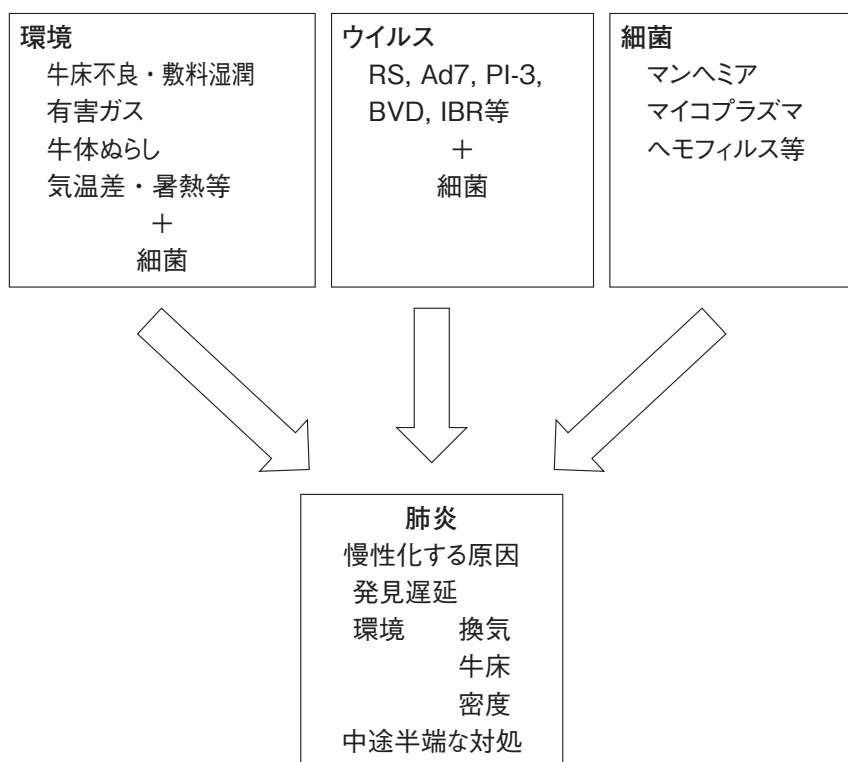
液剤、生菌剤等の投与を行って少し様子をみてもよいのか、判断する基準を教えてください。

- A** 子牛は体力がなく、病状の進行が早いので、何か異常があれば獣医師の診察を受けるのが基本ですが、元気で食欲もあり体温も正常、下痢も完全な水様便でなければ上記のような処置を行ったうえで、少し様子を見てもよいかと思えます。しかしふんが完全に水様である、ふらつきが見られる、1～2日様子を見たが改善が認められないといった場合には、早急に獣医師に診察を依頼しましょう。

Q3 経口補液剤を使用する際の注意点はありますか？

- A** 経口補液剤は、それぞれの製品につき指定されている量を微温湯に溶かして投与しましょう。ミルクに混ぜて投与してはいけません。断乳を行わずミルクも給与するときは、経口補液剤とミルクは1～2時間程度間隔を空けて

(図2)肺炎の原因
(生産獣医療システム 肉牛編より 一部改変)



給与してください。

ヒト用のスポーツドリンク粉末を使う方も多いですが、ヒト用と牛用のものとは組成がだいぶ異なります。ヒト用は牛用に比べ電解質含量が少なく、糖分が多く含まれています。下痢の症状によっては、十分な電解質を補ってあげることが難しいかもしれませんので、牛用のものを使うことをお勧めします。

肺炎の原因と対処

子牛で問題となる病気のもう1つが肺炎です。肺炎は下痢と異なり初期には病態がなかなか目に見えないため、気づいた時には手遅れとなってしまうことがあります。こじらせて慢性化すると、肺の悪くなった部位は二度

とよくなることはありません。このことから肺炎は下痢よりもたちが悪いと言えますし、下痢以上に早期発見、早期治療、そして予防対策が重要となります。

図2に示しましたが、肺炎の原因も下痢と同様、非常に多岐にわたります。そしてこの中のいくつかの要素が重なって発症することが多いことも、下痢と同じです。予防対策も下痢と共通する部分が多いので、併せて対策を立てるようにしましょう。

まずは環境対策で、ストレスの軽減を行います。具体的には冬季の寒さ対策、夏季の暑熱対策、牛舎の換気、こまめな敷料交換等が重要となります。肺炎に関しては、早期の対処が非常に重要となります。少しでもおかしいと感じたら獣医師に診察を依頼しましょう。肺炎に関してもいろいろな種類のワクチンが販売されています。接種にあたっては、各農場で何が原因の肺炎が、どのような時期に発生しているのか、子牛への移行抗体の抗体価等を考慮して、ワクチンの種類や接種時期を決める必要があります。獣医師に相談してみてください。

次回からは育成管理等を予定しています。

(筆者：日本大学 生物資源科学部 獣医学科
獣医産業動物臨床研究室 専任講師)

おらが故郷の経営自慢

飼料米利用による養豚経営の改善と、 堆肥を利用したアスパラガスを主体とした 野菜の栽培と六次化による経営改善

農林水産大臣賞／株式会社 五十嵐ファーム
(養豚経営・山形県鶴岡市)

山田 知二

平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会で最優秀賞を受賞した(株)五十嵐ファームの経営を紹介します。

地域の概要

(株)五十嵐ファームの所在する鶴岡市は、山形県北部の庄内平野に位置する日本海に面しており、雪深く冷涼な気候が特徴です。

北に鳥海山東に出羽三山（月山・湯殿山・羽黒山）を望み西は日本海と、景勝の地でもあります。肥沃な庄内平野に位置し稲作が産業の中心であり、畜産はそれほど盛んではなく、養豚は山形県全体でも10万頭を割り込む飼育頭数です。

経営・技術の特色等

【養豚を核とした複合経営】

当農場の経営は①養豚②稲作（水稻）③圃場園芸（アスパラガス生産）の3部門から成り立っており、それぞれが有機的に機能していて、経営を補完し合っています。



農場のスタッフ。一番右が経営主の五十嵐一春さん

しかし経営の柱は養豚で、五十嵐ファームの総売上高の90%を占めています。また利益率についても平成24年こそほぼ半々の利益率でしたが、平成25年以降は、養豚部門が90%を占めてきています。ただアスパラガスも水稻も養豚から排出される排せつ物を肥料として利用し生産されているため、排せつ物に価値をつける結果となっており、それぞれが経営を補完し合う形となっています。

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	経営・活動内容
昭和38年	養豚・水稲		父源一氏が養豚業を開始
昭和59年	養豚・水稲		一春氏(栃埼玉種畜牧場東北牧場で研修
昭和60年	養豚・水稲		一春氏(栃埼玉種畜牧場日高牧場で研修
昭和61年	養豚・水稲	母豚60頭一貫	一春氏北海道西原ファームで研修後、就農・経営継承。21歳
平成7年	養豚・水稲	母豚60頭一貫	新潟県養豚研究会「マスターズクラブ」加入
平成8年	養豚・水稲	母豚60頭一貫	米国 SGI 社のデュロックを導入
平成11年	養豚・水稲	母豚100頭一貫	離乳舎(オランダのシステム輸入)および肥育豚舎1棟新築
平成17年	養豚・水稲・アスパラガス	母豚100頭一貫	アスパラガス生産開始(地域貢献の一助に)
平成22年	養豚・水稲・アスパラガス	母豚100頭一貫	養豚経営研究会に参加
平成23年	養豚・水稲・アスパラガス	母豚100頭一貫	(有)サミットベテリナリーサービスとコンサルタント契約、JASV のベンチマーキング参加
平成25年	養豚・水稲・アスパラガス	母豚100頭一貫	TOPIGSPS (F1) 3頭(国内産)導入、繁殖豚舎のふん尿液肥化に成功
平成27年	養豚・水稲・アスパラガス	母豚102頭一貫	TOPIGS の GP 3頭をカナダから導入
平成28年	養豚・水稲・アスパラガス	母豚102頭一貫	自家配合工場建設・稼働、イリノイ大学で大豆に関する講義を受講

【高い農場成績】

養豚経営は昭和38年に経営主の五十嵐一春さんの父が母豚1頭から開始、現在は母豚106頭の一貫生産となっています。

昭和61年に一春さんが就農しましたが、当時は養豚(母豚60頭の一貫生産)と稲作の複合経営でした。一春さんは平成7年新潟県養豚勉強会「マスターズクラブ」に加入。平成8年には米国の種豚メーカーである SGI 社からデュロック種の雄を購入するなどして養豚部門に力を入れてきました。そして平成11年にはオランダから温蕩で室内や床面を暖房し、インバータによる電気制御で空調管理をする、当時としてはハイテクの離乳舎を輸入。新增設して、母豚100頭一貫生産の体制にしました。

種豚は平成25年にオランダ原産の TOPIGS の PS (F1・国内産) を購入して性能を確認した後、平成27年に TOPIGS の GP(純粋豚、

(表2) 経営実績(平成28年)

経営の概要	労働力員数(畜産・2000hr換算)	家族構成員	1.2人	
		従業員	2.0人	
	種雌豚平均飼養頭数		106.0頭	
	肥育豚平均飼養頭数		1,150頭	
収益性	年間肉豚出荷頭数		2,738頭	
	所得率(構成員)		30.3%	
生産性	種雌豚1頭当たり生産費用		629,862円	
	繁殖	種雌豚1頭当たり年間平均分娩回数		2.49回
		種雌豚1腹当たり分娩子豚頭数		12.7頭
		種雌豚1腹当たり子豚離乳頭数		11.3頭
		種雌豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数		25.8頭
	肥育	肥育豚事故率		4.0% (離乳時からの事故率)
		肥育開始時	日齢	80日
			体重	35kg
		肉豚出荷時	日齢	160日
			体重	120kg
		平均肥育日数		80日
		出荷肉豚1頭1日当たり増体重		1.063kg
		トータル飼料要求率		2.87
		肥育豚飼料要求率		2.45
枝肉重量			78.7kg	
販売価格	肉豚1頭当たり平均価格		38,138円	
	枝肉1kg当たり平均価格		484.6円	
	枝肉規格「上」以上適合率		65.0%	
安全性	総借入金残高(期末時)		43,881,614円	
	種雌豚1頭当たり借入金残高(期末時)		413,977円	
	種雌豚1頭当たり年間借入金償還負担額		61,485円	

輸入)を購入、自社でPS (F₁)を生産し、成績改善につなげています。

現在 TOPIGS は種豚の30%以上を占めるようになってきています。多産系の種豚の導入と管理改善が奏功して、1母豚当り年間離乳頭数は27.62頭、同肉豚出荷頭数は27.38頭、同枝肉出荷重量は2160.2kgで、参加しているベンチマーキング76社の中で3位となっています。

図1は一腹当たりの総産子数・生存子豚数と離乳頭数だが、直近の1年ではそれぞれ13.2頭・12.2頭、11.5頭となっています。TOPIGS 導入の効果は2014年頃からですが、一腹当たりの離乳頭数に表れてきています。

母豚1頭当り年間離乳頭数および出荷頭数(図2)でも平成26年頃から25頭/腹台に乗り、直近1年(同)ではそれぞれ27.6頭、27.4頭と順調に改善されてきています。

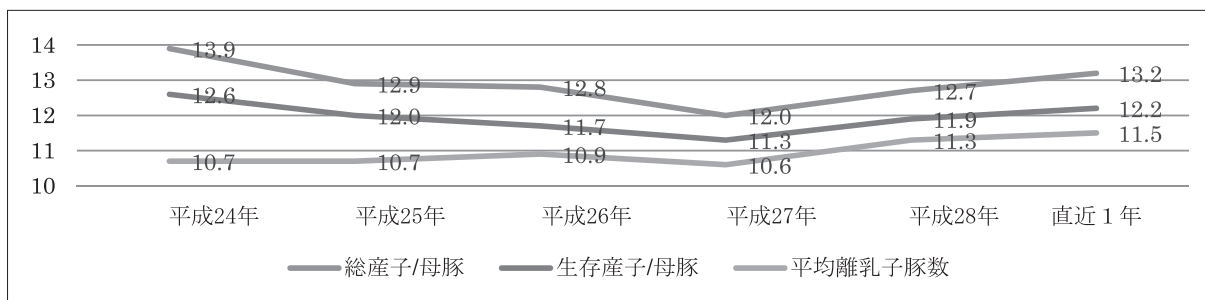


母豚舎

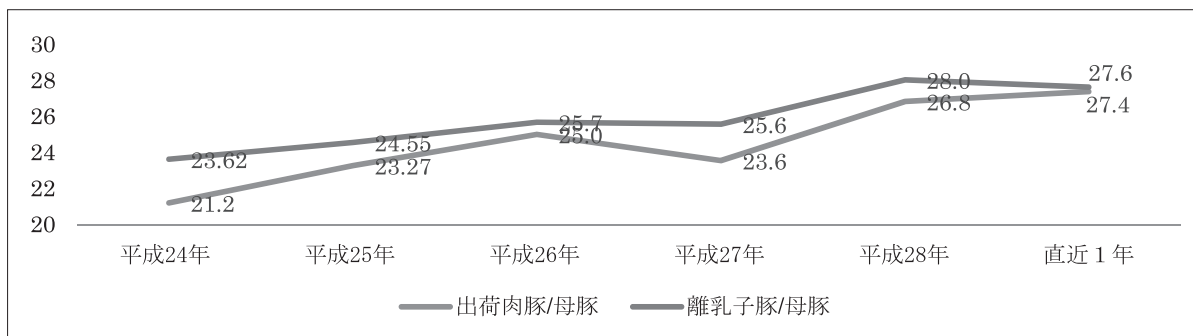
このほかにも母豚1頭当り枝肉出荷重量は2160kgと、国内の優良生産者が当面の目標とする2000kgを超えています。

母豚や子豚を飼育する面積を十分確保する氏の飼育管理は、生時から出荷までの一日増体(DG)でも694.1gと700gにせまっています。

また母豚の頭数(規模)も100頭から大きく増やしていません(現在107頭)が、これ



(図1)繁殖成績



(図2)母豚1頭当り離乳・出荷頭数

は、子豚1頭当たりの飼育面積を十分確保（一般的には、肉豚1頭当たり飼育面積は0.7~0.8㎡ですが、五十嵐ファームでは1.5㎡と倍以上）して、健康な子豚を育て出荷したいがため、動物愛護の観点から実施しています。しかし、これが結果的にDGの改善や、後で述べますが、飼料要求率（FC）の良さにつながっています。

五十嵐ファームの成績の優秀な点を挙げると枚挙にいとまがありません。これは一春さんのたゆまない努力によるものですが、種豚の選択と飼料用米を利用した自家配飼料の栄養効果などは、各種のセミナーや勉強会などで勉強してきたことを経営で実践した結果です。

【良質堆肥を生産しアスパラガス生産も展開】

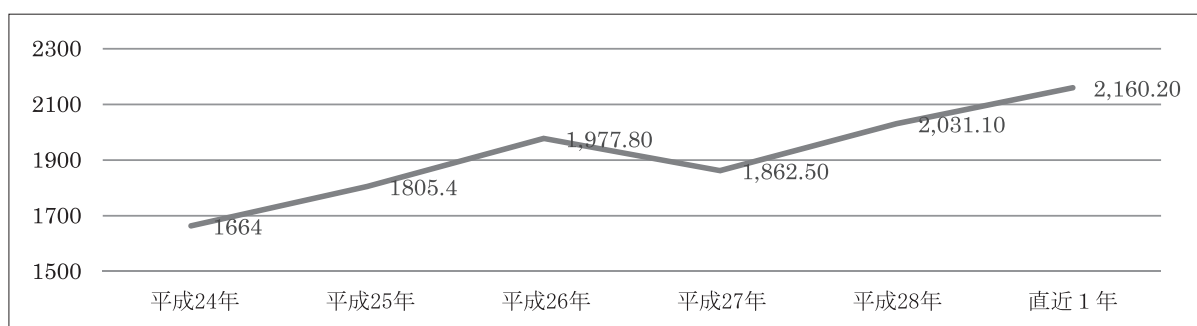
集落が入り組んでいる中山間地で養豚を営むにはそれなりに地域貢献が必要と考え、まず、雇用労働が必要になる作物を生産し雇用機会を生むこと、そして養豚場の産業廃棄物であるふん尿を生産物に還元できる循環型農業を目指すことを目標に平成17年にアスパラガスの生産を開始しました。その後繁殖豚舎などから排出される尿を液肥として利用でき

るように発酵させ、アスパラガスと稲作の双方に利用できるようにしました。このことから、現在、希望者には販売（150t程度）していることもあり、養豚から出るふん尿はたい肥として利用されていて生産と消費の数量が丁度バランスが取れているので、一春さんの目指した循環型農業は推移しています。ただ、離乳舎のスラリーのうち250t程度は処理が難しく全農ファームリサイクルセンターで処理しています。

アスパラガスの生産は、雇用労働を13人抱えるほどに成長してきており、氏の営業力とあいまってアスパラガス・水稲部門で300万円程度の経常利益をあげていますが、大半がアスパラガスの利益です。雇用労働は養豚でも2人採用しており、現在は、雇用労働は養豚も含め合計15人となっています。

【地元の飼料用米を活用】

一春さんは新潟大学の高田先生の論文を読んだり話を聞いたりして、30kg程度の子豚まではトウモロコシより米の方が発育に優れることを知っていました。折しも農林水産省が飼料用米の生産を奨励し始めたので、飼料用米の生産と購入もはじめました。現在は飼



(図3) 出荷枝肉重量/母豚



飼料用米を30%以上給与した高品質の豚肉

料用米250tを鶴岡市農協と2法人から購入し、飼料全体の33%配合しています。

飼料用米を利用するには自家配設備の建設が欠かせなかったため平成27年に設備建設に着手、平成28年から稼働を始めました。肉豚1頭当たり飼料費は1万3525円/頭、売上高飼料費率は34.8%と、自家配による飼料用米の利用が効果を上げています。

TOPIGSの導入や飼料用米の活用と自家配工場稼働によるコストダウンなどの効果はこれから現れます。さらに、**図4**に示す通り、種豚（特に雄種豚）の選抜と飼養管理・飼料設計により飼料要求率の改善が著しく、直近1年間の肉豚要求率は2.36とブロイラー並み



アスパラ生産を支えるスタッフ

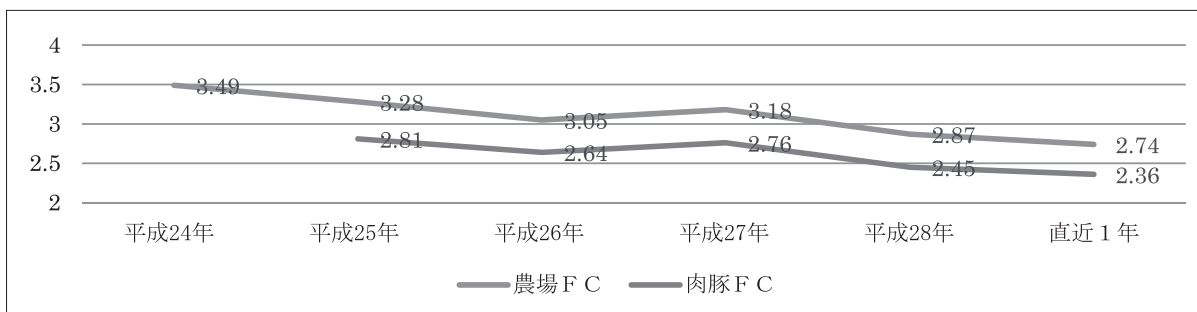
です。また、枝肉売価の改善（脂肪の白い、良質な枝肉ができる）に役立っています。

加えて、庄内平野は米作地帯であり、飼料用米を活用することによって地域の水稻栽培の耕作面積維持に貢献することができます。

また養豚協会の青年部長として、青森県に飼料用米利用の研修ツアーを実施するなど、国内由来飼料原料の確保を目的として、飼料用米の活用と普及に取り組んでいます。さらに庄内地域で検討されている実取りトウモロコシ実証試験にも参加し、国産のトウモロコシ供給開始の事態にも対応したいとしています。

【食育活動】

豚肉やアスパラガスを幼稚園や小学校の給食に提供するなどして、地域の食材を大切に



(図4) 飼料要求率の推移

する、食育の実践に協力しています。

五十嵐ファームのアスパラガスは太く柔らかいことに特徴があり、品質の高いアスパラガスを生産し地域内に販売することで温泉街の食材の一種類として地位を確定し魅力的な食材として温泉街を訪れる観光客から評価を受けるなど、食材として地域に寄与しています。

地域に対する貢献



生産された豚肉は山形県庄内豚として大手スーパーに流通していますが、温海温泉では『あつみ豚』の名称で銘柄化して販売しています。また、アスパラガスも温海ブランドの一つとして定着してきています。

また、鶴岡市は「ユネスコ食文化創造都市」として世界26都市の1都市に認定され、多種多様な食材の一つとして、五十嵐ファームの桜美豚を原料としたくん製のハム・ベーコンが製造され、販売されています。

鶴岡高等専門学校・ぶどう園・ハムメーカー・精肉店・レストランが共同開発したブレンドされた数種類のぶどうのせん定枝のスモーク用チップをくん煙材として製造されたくん製ハム・ベーコンを開発し流通させることで地域の食文化の発展と活性化に貢献しています。

地域雇用の創出にも貢献しており、養豚部門で2人の従業員（社会保険も充実）、アスパラガス生産で13人のパートを雇用しています。また、耕作放棄地になりそうな土地を借り入れてアスパラガスや水稻の生産を拡大し

ているほか、育苗組合や収穫利用組合を結成して田植えや収穫作業などを共同で行うよう組織に加入すると同時に、オペレーターなどの作業を率先して行い、高齢化している中山間地域農業の担い手の一員として活躍しています。

さらに、農場で芋煮会と焼肉パーティーをそれぞれ1回、計年2回の地域交換イベントとして開催しています。

将来への方向性



養豚を核とした循環型農業を発展させ、地域に溶け込む畜産会社を目指して営業することで、後継者も必然とできてくると考えています。高い能力を持った種豚を導入しましたが、さらにベンチマーキングを活用して、自社の農場の立ち位置を知り、各種のセミナーで勉強することで世界に通じる養豚を目指しています。

同時に中山間地の不利さはあるものの、循環型農業を目指すことにより効率的な畜産経営を確立し経営の安定化を図りたい。

養豚で世界に通じる生産性を上げるには従業員数に見合った規模の適正化と規模に見合った農地を考慮し、規模拡大が可能かも視野に入れ検討していきます。

また、単純に規模を追求するのではなく、子豚1頭に必要な面積なども考慮しながら、疾病の少ない、事故率の低い生産が継続できるようさらなる向上を目指していきます。

(筆者：日本養豚事業協同組合 参事)

中央畜産会からのお知らせ

平成30年度 畜産特別資金融通事業の実施について

公益社団法人 中央畜産会
資金・経営対策部

事業の概要



1) 事業概要

平成30年度において、負債の償還が困難な酪農経営、肉用牛経営または養豚経営に対し、長期・低利の借換資金（以下「大家畜・養豚特別支援資金」という。）を融通するとともに経営改善指導および債務保証に対する支援を行う事業が措置されました（貸付期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間となります）。

大家畜・養豚特別支援資金は、経営改善計画の作成とその継続的な見直しを要件に、償還困難な既往借入資金（元本および利息）について、次に掲げる資金を県団体等による経営指導の下、融通するものです。

(1) 経営改善資金

毎年の約定償還金のうち償還困難な額の借り換えを行うのに要する資金で、経営改善計画を作成→資金貸付→改善のための取り組み→実績点検→修正計画作成と反復（ローリング方式）して資金融通を行います。最終年度（平成34年度）については、必要な限度で、既往借入資金の一括借り換えが可能です。

(2) 経営継承資金

後継者が経営を継承すると認められる経営について、必要な限度で、既往借入資金を一括して借り換えを行うのに要する資金です。

2) 推進方針

県団体等は、資金を必要とする者の経営改善を的確かつ早期に達成するため、次に掲げる事項等を考慮し、資金借入者ごとに最も適切な経営・技術の指導を行います。

また、県団体は、当該都道府県内の本事業が必要であると思慮される大家畜・養豚経営体の早期把握に努めるものとします。

(1) 資金借入者は、生産技術等について課題を抱えていること等から、要因分析と当該課題の解決に向けた具体的方法の提示等を図ること。

(2) 資金貸し付け後も資金借入者の経営が安定するまで、経営改善指導を継続すること。

事業推進に当たっての留意事項



1) 借入希望者の要件等

(1) 大家畜・養豚特別支援資金の経営継承資金における借入希望者の要件

- ① 経営継承資金は、多額の負債を抱え、その償還が困難となっている経営において、このことが要因となって後継者の経営継続意欲が減退していることに鑑み、償還困難な既往借入金について必要な範囲内で一括して借り換える資金を長期低利で融通するもので、後継者によって当該経営の継続が図られることを要件としています。
- ② 一方、後継者が経営を継承したことの具体的な判断基準として、現経営主（親）と後継者（子）の双方で、当該後継者が今後経営の主たる従事者となることの取り決め書を徴するとともに、このことについて融資機関が確認することとしています。
- ③ 経営継承資金の借入者名義については、現経営主と後継者の連帯債務とするよう指導してください。
- ④ 法人経営を経営継承資金の貸付対象としません（1戸法人は、実質的に家族経営と変わらないことから貸付対象）。

（要件）

「現に大家畜（養豚）経営に従事しているおおむね40歳以下の後継者が、経営継承資金の借入年度以降において当該経営の主たる従事者となることが認められること」

(2) 大家畜・養豚特別支援資金の経営改善資金における残高借換

経営改善資金の残高借換については、本資金の貸付期間の最終年度（平成34

年度）に限り、それまでの経営改善指導との継続性等も考慮しつつ、必要な限度において借換対象資金の残高借換を行うことが可能です。

2) 大家畜・養豚経営改善計画等

(1) 経営改善計画については、過大とならない単価や数量となっているか、また、家畜の売却による収入が盛り込まれている場合においては、当該畜産経営の改善と矛盾していないかを確認してください。

(2) 資金借入者は、経営改善計画の作成年度から5年間（都道府県知事等が必要と認めた場合にあつては10年以内）にわたり、毎年度経営改善計画を見直す必要があります。

したがって、前年度に資金の貸付けを受けている者は、本年度の貸付けがなくても経営改善計画等を見直すこととなります。

(3) 見直し計画作成に当たっては、必ず前年度の経営改善計画と比較し、問題点を踏まえ見直し計画を作成するよう指導してください。

(4) なお、経営改善計画の達成が困難となったと認められる場合、都道府県知事等が各経営改善計画の承認の取消しを行うこととされていますので、見直し期間終了後も、約定償還が滞っている等経営改善計画の達成が危ぶまれる場合には、都道府県知事等と協議の上、引き続き計画の見直しと資金借入者への指導を行うものとします。

(5) また、県団体等は、経営改善計画等の達成に向けてどのような助言、指導を行ったかについて記録を残しておいてください。

3) 融資機関支援計画

融資機関支援計画は、融資機関が資金借入者の経営改善を早期に実現するため、関係者と協議しつつ、作成するものですが、経営改善計画と同様、同計画の見直し期間中、毎年度見直しする必要があります。

なお、融資機関は、経営改善計画の妥当性および償還可能性、借入者の経営改善のための指導等に係る効果に関する意見を付して、融資機関支援計画と併せて都道府県知事等に提出します。

4) 審査基準の作成および活用

- (1) 都道府県の審査委員会は、「畜産特別資金計画書審査基準作成マニュアル」（平成18年6月社団法人中央畜産会）を参考に各都道府県の実情に合った審査基準を設けることとしています。
- (2) 都道府県知事等は、審査基準に基づい

て資金借入希望者の審査を行うとともに、事業計画書に係る機構理事長への協議の際には、経営改善計画に当該審査基準を添付して提出してください。

なお、審査基準は、都道府県の実情の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを図るものとします。

5) 貸付利率および利子補給率等

貸付利率、利子補給率等については、農業近代化資金の基準金利、日本政策金融公庫の経営体育成強化資金の貸付利率等を基準に設定することとしています。

しかしながら、経営改善計画の作成等の際には、貸付時の金利が未定であるため、直近の金利を参考に経営改善計画の作成指導を行ってください。

なお、今後の金利動向によって貸付利率等を見直すことがありますので、借入者の指導に際しては、この点に留意してください。

(大家畜・養豚特別支援資金)

(平成30年3月22日現在)

	基準金利	自助努力	利子補給率	貸付利率
一般	1.60%	0.25%以上	1.05%以内	0.30%以内
特認	1.60%	0.25%以上	1.05%以内	0.30%以内
経営継承	1.60%	0.25%以上	1.05%以内	0.30%以内

※ 都道府県は、上乘せ利子補給等の自助努力分について、融資機関等地元関係機関と連携し、都道府県内の負担調整を行ってください

(独)農畜産業振興機構からのお知らせ**肉用牛肥育経営安定特別対策事業(牛マルキン)の補填金単価(概算払)について****[平成30年2月分]**

平成30年2月に販売された交付対象の契約肥育牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱第6の9および附則10の概算払の補填金単価について、表1および表2の通り公表しました。

また、平成30年2月に販売された生産者積立金の納付が免除された事業対象の契約肥育牛に適用する補填金単価については、表3の通り公表しました。

なお、補填金単価の確定値については、5月上旬に公表する予定です。

(表1) 補填金単価の算定 (全国)

単位：円/頭

区 分	肉専用種(地域算定県を除く)	交 雑 種	乳 用 種
粗収益 (A)	1,234,336	657,552	435,377
生産コスト (B)	1,216,280	747,984	475,022
差 額 (C)=(A)-(B)	18,056	△ 90,432	△ 39,645
暫定補填金単価(D)= (C) ×0.8	—	72,300	31,700
補填金単価(概算払)(D)-4,000	—	68,300	27,700

注：平成26年4月分から、消費税抜きで算定しています。
100円未満切り捨て

(表2) 補填金単価の算定 (地域算定県・肉専用種)※

単位：円/頭

岩手県(日本短角種)	広 島 県	福 岡 県	佐 賀 県	長 崎 県
—	12,700	37,200	—	27,300
熊 本 県	大 分 県	宮 崎 県	鹿 児 島 県	沖 縄 県
27,700	99,100	—	35,800	—

注：各県の算定結果です。

(表3) 補填金単価 (概算払) (生産者積立金の納付が免除された事業対象の契約肥育牛)

単位：円/頭

肉専用種(地域算定県を除く)	交 雑 種	乳 用 種
—	51,200	20,700

注：補填金交付額に見合う財源が不足する場合等、上記補填金単価を減額することがあります。

あいであ & アイデア

取り外し可能な子牛の寒さ対策

(公財)中国四国酪農大学校 田中 恵

背景・ねらい

本校は岡山県の北部の蒜山高原にあります。蒜山高原は夏は涼しく過ごしやすいのですが、冬の冷え込みが強く、本年1月には -16°C を記録したほどです。とても寒い地域であることに加え、哺乳牛がいる育成1牛舎(写真1)は、牧場内で最も北側にある牛舎であるため、冬はとても寒く、寒さ対策がとても重要です。



(写真1) 育成1牛舎



(写真2) 寒さ対策完成!

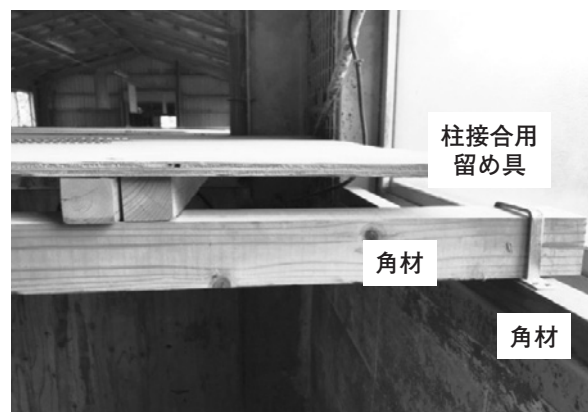
しかし夏場は牛舎内が暑くなるため、常設の寒さ対策を行うことはできません。そこで、冬場のみ、しかも簡単に設置でき、夏季には簡単に取り外せて、保管にあまり場所を取らない牛の保温設備を作成し設置しました。これは、単管パイプで仕切られた馬屋に、子牛のベットの上(天井のフタ)と隣の馬屋との仕切り部分にベニヤ板を設置することで、子牛の周囲4面を囲い保温することと、ベットの上にヒーターを取り付け外から熱を与えることを目的として作成しています。

作り方

- ①通路側単管パイプに単管クランプネジ止めを設置。(写真3)
- ②窓枠に角材をはめ込み、柱接合用留め具を設置。(写真4)
- ③通路から窓までの角材を①と②を用いて固定。
- ④天井のベニヤ板の下側と通路から窓までの角材の上側に、通路と並行に角材を取り付け、天井板が前後に動かないようにする。(写真5)
- ⑤ベニヤ板に2つ穴を開け、そこからチェーンでヒーターを吊るす。(写真6)
- ⑥ベニヤ板の上のチェーンに紐をつけ、ベニヤ板に打ったビスに結び付ける。(写真7)
- ⑦側面のベニヤ板に穴を開け、結束バンドで固定する。(写真8)



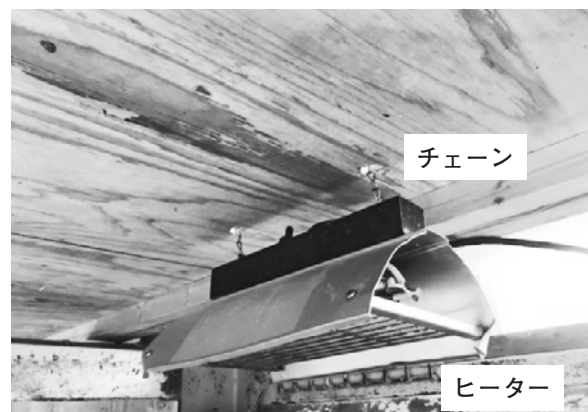
(写真3) 通路側の角材固定



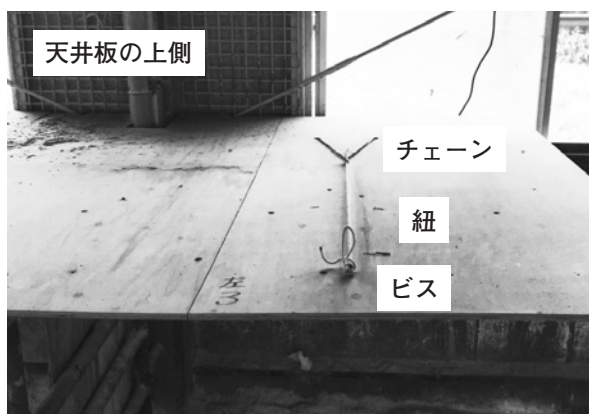
(写真4) 窓側の角材固定



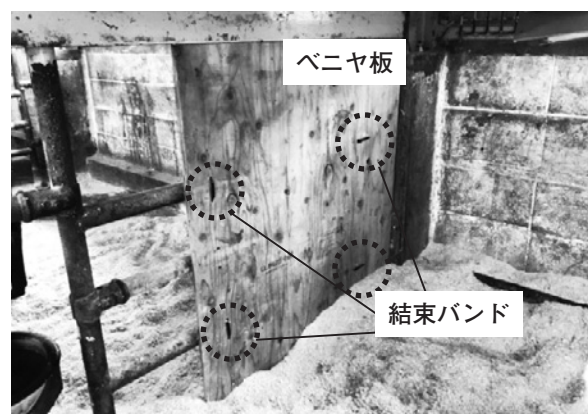
(写真5) 天井板固定



(写真6) ヒーター設置



(写真7) ヒーターの固定



(写真8) 側面のベニヤ板固定

冬が終われば、ヒーターと角材とベニヤ板のみに分けて保管ができるため、コンパクトに収まります。この方法を実施し始め、冬季の下痢や呼吸器病が減少し、子牛がすくすく成長しています。

(筆者：(公財)中国四国酪農大学校 教務課主任)

あいであ & アイデア